

至急極秘親展

0900

未読

電報

二二八二〇發
二二五〇著
二四〇六三〇提出

昭和一九、五、二四

甲部隊參謀長

通電先 次長、支總、戊、呂、登、俾、(漢口)北京

甲方コ參二電第一四七號

本二十三日正午頃迄ノ狀況

一野副兵團ハ洛陽外郭陣地ニ對シ一部ヲ以テ東、南正面ヲ監視
シ第七旅團(三大隊)ヲ以テ北方地區第十二野戰補充隊一瓦
田部隊ニシテ三大隊)ヲ以テ西方地區ヨリ攻撃中ナルガ戰車
ノ一部ハ到着シアリト
二十一日ヨリ本二十三日朝迄ニ歩兵戰車(一中隊)砲兵、飛
飛機ノ協力ノ下ニ更ニ石洞北側高地上清宮營庄苗家溝陣地ヲ
奪取ス戰況ハ逐次進展シ敵ハ動搖シ一部ハ昨二十二日夜封鎖
ノ間隙ヨリ北方ニ脱逸セルモノアルモノ如シ、尙同方面ノ敵ハ瓦

新隊（催涙瓦斯砲彈）ヲ使用セリ

ニ第十二軍ハ主力ヲ以テ依然盧氏東北方地區山地帶嵩縣周溝地區

魯山西方山地ノ敵掃蕩ヲ續行シ且本二十三日零時野副兵團ヲ

掌握シ九時過ギ同兵團ニ對シ成ルベク速カニ厲水ヲ嚴封スル

如ク現在ノ線ヲ確保シ爾後攻撃ヲ準備セシムルト共一部兵

力ヲ増加シ速カニ洛陽ノ敵ヲ捕捉擊滅スル如ク處置ス

第三十七師團盧氏挺進隊ハ二十日拂曉盧氏ヲ急襲シ軍事施設

ノ破壞城内ノ掃蕩ヲ實施セル後二十一日七時汜蠡ニ到着ス

盧氏ノ敵ハ第一四、第一五、第三八、第四七軍ノ敗殘兵及後

方部隊約八〇〇ナリシモノノ如シ

ニ第一軍ハ逐次陝縣西方要域確保ノ態勢ニ移行シツツアリ 其

ノ一部ハ退却中ノ第三六集團軍司令部、第四七軍部ヲ捕捉擊

滅ス

ハ敗殘ノ湯恩伯軍ハ嵩縣南方及西南石山西方山地ニ集結シ部隊

ヲ收容シ態勢ノ整理ヲ實施シツツアリテ第二九軍第一三軍第

八五軍部隊ヲ逐次廟灣（嵩縣西南約三〇軒）周邊地區ニ移動
集結シアリ

電 報

昭和一九、五、二五

通 信

第一師團司令部

甲 郎 陸 参 謀 長

甲 方 三 一 〇 〇 〇 〇

第五十師團ノ「B」二五〇機墜状況ニ關シ師團ヨリ報告ノ儀ヲ

參 照 迄

一日時、五月十三日十時頃

三 岩 所、宜 陽 (三八一九一) 東方及將清河河谷附近

三 激 墜 敵 機 數

「B」二五〇型二機 (内一機墜陸) 「P」四〇〇型三機

四 便 用 火 器 (彈 數)

重 機 一 六 銃 (普 通 實 包 約 九 六 〇 發、徹 甲 彈 約 六 〇 發) 輕 機 三 二

銃 小 銃 一 二 箇 小 隊 (輕 機 小 銃 計 約 二 一 二 〇 發)

81

0901-3

三 墜機状況

當時敵機ハ附近ヲ前進中ノ戰車隊ニ對シ約二百米ノ高度ヲ以テ
爆撃シタル後引續キ對空射撃部隊ニ對シ約五〇米ノ高度ヲ以テ
旋回シツツ銃撃ヲ爲シツツアルヲ麥島中ニ豫メ射撃準備ヲ整へ
敵待機セシメアリタル對空射撃部隊ヲ以テ必墜主義ニ依リ墜
墜セリ

六 成功ノ主因

- (1) 對空射撃ニ任ゼシ部隊ハ前日「P-140」型四機ヲ墜シ一兵
ニ到ル迄必墜ノ自信アリシコト
- (2) 敵機ノ超低空ナリシコト急降下ノ爲機體傾斜ノ對空射撃容易ナ
リシコト
- (3) 重機ガ徹甲彈實包ヲ使用セシコト
- (4) 作戰開始直前飛行第五十四中隊ト對空射撃演習ヲ實施之ヲ機門
シ必墜主義ヲ徹底セシメタルコト

極秘

0902

第三編

日
用

電
報

總
長
宛

甲
方
コ
參
二
電
第
一
五
八
號

昭
和
一
九
、
五
、
二
五
日
一
六
五
〇
發
一
七
一
八
著
一
七
一
〇
受
付
一
七
五
五
提
出

甲
部
隊
長

第十三軍、野副兵團及戰車第三師團ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ
昨二十四日十三時ヨリ洛陽城ヲ總攻撃中ナリシモ頑強ニ抵抗
セル敵ヲ殲滅シ本二十五日八時三十分完全ニ占領セリ
戦果後報ス

(終)

極秘

第三〇五号

昭和二十一年

三月

陸軍省

陸軍省 陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部

0904

(1) 作戦開始前ニ於テ見敵必墜主義ヲ徹底シ之ニ基キ對空射撃ノ訓練ニ努メタルコト

(2) 敵機ハ急降下ニ依ル超低空射撃ヲ實施スルモ特ニ急降下ノ際ハ機體傾斜シ目標大トナリ捕捉シ易キヲ以テ之カ好機ヲ利シ沈著ニ射撃セルコト

(3) 第一線部隊ハ逐次墜撃ノ體驗ヲ得一兵ニ到ル迄必墜ノ自信ヲ有シアリ

(4) 機關銃ニ徹甲彈ヲモ使用セリ 尙敵ハ二十二日偽爆彈（龍製ニシテ長サ二米。直径五〇糎）ヲ投下セルモ右ハ地上部隊ヲシテ對空射撃ヲ中止セシメ其ノ機ヲ利用シテ對地攻撃ヲ行ハントスルモノ

（終）



板報

電報

通電先 次長、支總、各、関、朝

甲 部 隊 參 謀 長

甲方コ參二電第一七六號

〇一三三發
〇八一〇著
〇九〇〇受付
一七一〇提出

昭和一九、五、三一

一二十九日十時ヨリ十二時ニ亘ル間敵機ハ管内全面的ニ出撃シ主ト

シテ鐵道特ニ機關車ニ對シ超倍無統禦ヲ實施シ相當ノ損害ヲ蒙リ

タリ 右ハ北支方面ニ於テ最初ノ事例ナルモ西安飛行場施設ノ完

成ニ伴ヒ今後益々激化ヲ豫想セラレ北支ニ於ケル鐵道ノ地位ニ

鑑ミ今後ノ動向懸念ヲ要スルモノアリ

三十日來襲狀況主ノ如シ

(2) 京滬線方面

獨逸機、長郊賢店、北行野、各屬（何レモ保定以北）附近ニ於テ

「P-151」型二機、左側三對シ銃撃ス。銃撃列車七、運動不能
機関車二十一

(3) 南河内線方面

「B-125」型三機、二機は河内線銃撃、臨海飛行場工事列車。コソ馬
銃撃、運動不能ノ他二、三ノ機ヲ銃撃ス。銃撃列車五、運動不能
機関車四

(4) 臨海線方面
受ク銃撃列車五、機関車五、運動不能四、重傷者四、其ノ他調査中
(5) 尚「P-151」型二機、河内線銃撃、石景山製鐵所、石門飛行場
ヲ銃撃、九七式戦闘機一小破

(終)

第三課

電報

通電先 次長、支線

甲方ヨ三三電第二三五號

甲部 隊 參 謀 長

六、一、四、五、五、九、著 六、一、一、八、五、四、提出

昭和一九、六、一

京漢線ノ建設ハ順調ニ進捗シ五月二十七日隴海線ノ新鄭間ノ重

列車運轉ヲ開始ス

隴海線ハ洛陽一陝縣間(約一四〇軒)ヲ占領セルモ橋梁隧道等

多數破壊シアリテ回収困難ナル部分アル見込ナリ

占領車輛、機關車六(修理可能五)、客車一〇、屋根車五一、

無車七九、「フラット」一ナリ

目下鐵道第六聯隊三刀(二大隊強)ヲ第十二軍及第一軍ニ配屬シ

テ之ガ補修利用ニ任ゼシメツツアリ

六月五日撤收開始ノ豫定ナリ

(終)

至意

親展

0910

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

第三報

極秘

電報 次長宛

昭和一九六二
六月二二日發
六月二二日發
甲部隊參謀長

甲方第三參電第三三六號

五月三十日十二時乃至十三時、間敵戰鬥機各二機（P-15C）

ヲ以テ京漢線北京-石門間、隴海線開封-碭山間

南同蒲線南開-解縣間、封平鐵道ヲ銳撃シ左ノ如キ

損害ヲ出セリ（鐵道關係ニ）

(1) 被襲ニ三箇所（内列車一六）

(2) 一六列車ノ中機關車ノ損傷三輛、中九輛ハ工廠修理ヲ

要ス（數發乃至七ノ發命中）

(3) 驛施設トシテハ給水塔「ホ」等ヲ銳撃セラルモ大障碍

ナシ

(3) 人員即死三 人員傷一
二 右三依り運行ハ二十分乃至二時間三十分ノ遅延アリタル也
一 應急施策ニ依リ迅速ニ恢復セリ
三 従事員ニハ大ニ動搖ナシ
四 対策トシテハ既定計畫ヲ確實ニ実行セシムル外對空火器
急遽強化ニ努ムアリ

0912

000 96

極秘

電報

參考次長 次官

通電先支總(漢口南京)關 朝阜(漢口)

甲方コ參ニ電第一八五號

敵空軍ハ尚安康、梁山、南鄭、西安等ニ戰爆合計

一六〇 | 七〇機内外アルモノノ如ク其ノ蠢動ハ依

然活潑ナルモノアリテ最近ニ於テハ戰場第一線

外後方地區黃河以北占據地區ニ對シ連日來襲シ我

輸送遮斷重要事業場等ノ攪亂ヲ企圖シアルモノノ

如シ 特ニ鐵道被害ハ輕視ヲ許サカルモノアリ

五月二十五日ヨリ六月二日迄ノ間ニ於ケル來襲概

況及物の損害左ノ如シ

昭和一九 六、五、五〇發
六、四、二一五〇受付
五、〇、三五〇提出

甲部隊參謀長

一、來襲機數一九六（P1三八型六機、P1四〇型
 七六機、P1五二型八機、P1四七型三機
 B1三五型一機、機種不明九機）
 一日平均約三二機
 二、來襲地區五月二十七日二十八日頃ハ主トシテ戰
 場第一線（特ニ洛陽及第一軍方面）
 爾後右ノ外山西省南部運城周邊地區、北京以南
 ノ京漢線及徐州ヨリノ隴海線、南同蒲線及鄭州
 霸王城間ノ列車及鐵道施設等
 三、鐵道被害狀況（五月三十一日六月一二日ノ三日間）
 敵機ハ運行中ノ列車特ニ機關車、驛、給水塔等
 ニ對スル爆撃又ハ低空銃撃ヲ執拗ニ行ヒ攻撃サ
 レシモノ一入一列車損傷、機關車一五内工場

修理ヲ要スルモノ（修理期間數日乃至十數日）

一ニシテ被彈數多キハ一輛ハ〇發ニ達シアリ

右ニ依リ列車ノ運行ハ目下ノ所空襲ノ都度二三〇

分乃至三時間遲延シアル程度ナルモ爾後更ニ此

程度ノ被害ヲ受クル時ハ工場修理能力低下機

關車ノ酷使等ニ鑑ミ輸送上重大ナル支障ヲ來ス

虞アリ

其ノ他現在迄ニ中華航空所屬機三機擊墜及炎上

サレ目動貨車ノ損傷ハ百輛ヲ下ラスト思考シア

ルモ目下調査中 又三十日戦闘機ノ銃撃ヲ受

ケシ石炭山製鐵所門頭溝彈藥庫ハ大ナル被害ナ

シ

尚昨ヒ日霸王城ニ來襲セル「P-140」型

0915

「P-151」型等計一七機中高射砲ニ依リ四機
(内不確實一)撃墜セリ

(終)

0916

94

秘

極

日誌用

電報

昭和一九二六年六月六日
發
受付
六五三三
提出

甲部隊參謀長

通電先 次長、總(漢)威司、登集(漢)北京

甲方コ答ニ電第一八九號

一、敵ハ陝縣附近ニ進出後、我が第一軍並ニ洛河河谷方面
 第十二軍ノ兵力移動等ヨリ同方面ニ於テハ我が積極
 的企圖ナク寧口撤退ヲ豫測セルガ如ク五月末頃ヨリ
 反攻ヲ企圖シ空軍ヲ以テ戰場及後方ヲ擾亂セシムルト
 共ニ隴海線ヨリ洛河ニ互ル間ニ逐次前進シ其ノ一部ハ
 我が第一軍方面ニ攻勢ヲ採リツツアリ

第一線ノ敵兵力ハ第一軍正面ニ於テ第四〇軍(第八師)
 第一〇六師(第四七軍)ニシテ第三四集團軍長木子延年ノ

指揮ヲ屬シ其ノ南方ニ第一四軍在ルモノノ如シ

洛寧方面ニ對シテハ第八軍一部暫編第四軍、新編第八軍、第四集團軍(第三八軍、第九六軍)等殆ド第一戰區軍(何モ大小ノ打撃ヲ受ケアリ)ニシテ第八戰區ヨリ東進部隊(即チ四一五箇師内外)ハ統略鎮附近及盧氏北方地區ニ於テ督戰的ニ配置セラレアルモノノ如シ尙蔣介石ハ故ナク陝西省内ニ退却スベカラスト嚴命シアリ、一方蔣介石ハ我ガ第十二軍魯山附近掃蕩及占據態勢確立ノ爲メ兵ク移動等ヲ南陽方面ヘ進取準備ナリト判斷シ第五戰區ニ對シ曰下防衛準備

ヲ命ジアリ

ニ陝縣附近ノ西安域確保ヲ容易ナラシムル爲メ先ヅ靈涼方面ノ敵特ニ第八戰區方面ヨリノ増援部隊ニ一數ヲ加フ

ルヲ可トスル第一軍ノ意見具申ニ基キ方面軍ハ同軍ニ
對シ適時作戰ヲ實施シ爾後速クニ京態勢ニ復歸
スバク命ズルト共ニ第十二軍ニ對シ有カナル一部ノ兵カヲ第
一軍司令官ノ指揮下ニ入ラシメ又別ニ所需ノ兵クヲ以テ洛
寧方面ヨリ官道口(靈錄貝—蘆氏中間)ニ方面ニ對スル
作戰ヲ準備マル如ク處置ス

尚第一軍ハ當面ノ敵反攻狀況ニ應ジ第十二軍ニ策應ヲ
強化スル如ク準備ヲ為シツツアリ

三第一軍ハ敵ノ反抗ヲ數チ碎シツツ逐次攻撃ヲ準備シ明五
日拂曉ヨリ攻撃ヲ開始スル筈

四第十二軍砲兵隊(歩兵二大隊戰車師團ノ約半部)
目下使用シ得ル限度(山砲十五榴各約一大隊弱)ヲ
第一軍司令官ノ指揮下ニ入ラシメ第百十師團ノ一部

(邦兵) 三 大隊) ヲ以テ洛寧附近官道方面ニ對スル作
戦ヲ準備セシメ尙第三十七師團ヲ以テ葉縣保安鎮方
向ノ敵ノ撃滅ヲ準備シ爾餘ヲ以テ占據地ヲ確保シ
態勢ノ強化ヲ促進シツアリ。

(終)

0920

00

98

極秘

電報

六二二、一九〇發

昭和一九六二
六二二〇一〇提出

甲部隊參謀長

通電先 次長、防總、總軍、同戰司、甲戰司

甲方參電第一三三三號

十日十三時三十分及十六時、二回、巨リ敵機PI

一五〇型各二機、太原及陽泉ニ來襲又

我が敵機ノ陽泉機關庫銃撃中ヲ地上火器

ニ依リ射撃シ、一機ヲ榆次附近ニ於テ墜落セシ

我が損害

太原附近ニ於テ九七式戦闘機一機炎上

機關車ニ被彈 運行不能

銃撃ニ依リ

死亡者 一〇名(華人)
負傷兵 一

其ノ他ナシ

(終)

日誌



電報

一四〇八三〇番 六一四 一〇二〇發行
一六三〇〇提出

昭和一九、六、二四

甲 部隊 參謀 長

通電先

次長、次官、支線、長、登、波、乙（各機關司令所、留守共）、進、戊、衣、陣、島、春、谷、野線

甲方「コ」三參電第二七八號

方面軍へ六月十五日ヲ期シ鄭州戰團司令所ヲ閉鎖スルニ付向所宛

電報ハ六月十五日十二時以降北京宛打電相成慶、但シ當分ノ間鄭

州ニ連絡所ヲ設ケルニ付直接「コ」號作戰ノモノハ同所ニ付同時

ニ打電相成慶

（終）

0923

101

至急極秘親展

0924

日誌用

電

報

通電 先次長支總(南京漢口)

甲 部隊 參謀 長

甲方口參一電第四五九號

六二四
三五〇
三五〇
六
一五
一五
提出

昭和九 六一五

一新設飛行場

鄭州第一飛行場(鄭州東方約一五料) 南北二〇〇 東西一五〇

鄭州第二飛行場(鄭州東方約一五料) 東西一〇〇 南北一九〇

新鄭飛行場(新鄭東方約一五料) 北東一南西六〇 北中東南一三〇

許昌飛行場(許昌西北方約一五料) 南北八〇 東西一三〇

禹縣飛行場(禹縣東方約一五料) 南北八〇 東西八六〇

澎波鎮飛行場(洛陽南方約二三料) 六〇 一〇〇

白馬寺飛行場(洛陽東東北約二三料) 南北一〇〇 東西一七〇

郟城 飛行場 (郟城東方約三料) 南北八。 東西一。

滎陽 飛行場 (滎陽東北約三料) 北西、東南八。 北東、西南一。

陝縣 飛行場 (陝縣東方約三料) 東西一。 南北八。

陽武 飛行場 八。一八。

以上殆ト黃土質ニシテ陽武飛行場ヲ除ク外幅員ニ應ジ

飛行機ノ離着陸可能ナルモ雨天ノ際、使用不能

新鄭 飛行場、障礙物、爲戰鬥機及大型機ノ使用

不能ニシテ新ニ設定スベク準備中ナリ

二 敵側ノ飛行場ヲ補修セルモノ

河南 飛行場 (河南西方約三料) 南北一。 東西一。

三 破壊セル敵飛行場

盧氏 飛行場 (盧氏西南) 四。一七。 燃料庫二

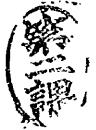
兵器彈藥庫十數箇 豫備倉庫ラレキモノ一格納庫ナシ
附屬施設ハ全部爆破シ使用不能ナラシメ滑走路ハ南北
ニ幅深サ共約一米ノ壕ニ條掘開セルモ復舊ハ比較的
容易ナルバシ
該飛行場ハ前進著陸場トシテ使用レアリタモク如ク
常時使用セル形跡ナシ

四、コト號演習開始以來戰場ニ來龍表セル敵飛行機ハ
漢中 安康 恩施 梁山ヨリ出撃セルモノニシテ西安
老河口ヲ前進基地トシアリ

(終)

秘親展

0928



電 報

次 長 宛

甲 部 隊 參 謀 長

昭和一九。六。一八

一四三〇一〇號
八一八〇七一五著
一八〇七〇三機出

甲方コ参二電第二〇九號(電註、一部未著ナルニ配布ス)

一 陝 縣 附 近 要 域 確 保 容 易 ナ ラ シ ム ル 爲 反 攻 ヲ 企 圖 セ シ 以 テ 對 シ 六
月五日攻勢ヲ開始セシ第一軍ハ峻峻ニ振リ頑強ニ抵抗スル以テ第
一戦區ノ六一七師團胡宗南直系約五個師ヲ撃破シ十一日頃關中
東側地區ニ進出作戰目的ヲ達成主力ハ二十二日夜ヨリ反轉十四日頃
曉原態勢ニ復歸ノ豫定ニテ敵ノ妨害ヲ受クルコトナク

(電註、以下一部未著)

警備態勢ヲ確立シ圖ルト共ニ獨立混成第七旅團ヲ以テ鄜城以南、
長蘆關以北ノ京漢線ノ確保警備ヲ準備シツツアリ

第三十七師團ハ八日來葉縣、舞陽保安鎮方面ノ以テ第五五、第
八九、一〇一ヲ播蕩シツツ十二日鄜城南方地區ニ集結シ十七日南進ヲ
開始スル筈

獨立混成第七旅團ハ十日鄜城附近ニ兵力(四大)ヲ集結シ本十四

0929

105

00

日前進ヲ開始ス

二 第六十四師團ハ京漢線沿線以東所在ノ強以ヲ掃蕩シツツ九日鄭城及其ノ東方地區ニ集結シタル後十一日出發シ主力ヲ以テ鄭城ト信陽道一部ヲ以テ其ノ東方地區ヲ前進セリ、信陽到着ハ二十日頃ノ豫定
岩本支隊（第十二軍指揮下ニ入ラシメアリ）ハ十四日新郷發二十

五日頃鄭城到着ノ豫定

四 今後豫ハ將鼎文直轄軍形面上下ノ打撃ニ依リ官分整調ノ止ムナキ

實情ニ依リ豫ハ積極的行切困難ニシテ豫方後方遊撃擾亂ヲ企圖スベキモ

其ノ一部ヲ以テ愈々豫備態勢ヘノ移行ト共ニ陝縣、洛寧、嵩縣、魯

山、西ニ進出スベク特ニ陝縣ニ對シテハ狀況ニ依リ第八戰區

部隊冷後ニ依リ南方ナル部隊ヲ以テ反撃シ來ル企算少シトセバ又

第五戰區ノ部隊ハ未ダ大ナル打撃ヲ受ケアラザルヲ以テ京漢線特

ニ進出以テニ於ケル遊撃策動ハ差當リ第一戰區ヨリ執拗ナルモノ

アルベシ

（電註、以下未著）

秘
親
展

0930

106

秘



電報

昭和一九、六、二七
六二六二一一〇發
六二七〇三二〇受付
二七〇一四五著
一〇三〇提出

甲 部 隊 參 謀 長

目誌用

通電先

次長、支總、(漢口、南京)、旭、登、上海、金華、
武漢防衛、乙、仁

甲方參二電第三六〇號

京漢作戰方面ニ於ケル狀況

一 靈寶作戰ヲ終了セル第一軍ハ歩兵四大隊ヲ以テ大營、陝縣西南約
八軒一附近ヨリ高家山、大營南南東約二六軒一附近ニ亘リ陣地ヲ
占領セシメ其ノ掩護下ニ歩兵四大隊ヲ以テ十八日ヨリ陝縣附近ニ
陣地構築ヲ開始シアリ

軍戰鬥司令所ハ二十二日太原ニ歸還セリ、當面ノ敵ハ我方方ノ反
轉後逐次進出シ來リ其ノ一部ハ十五、十六日頃ヨリ陣地ヲ占領セ
ル掩護部隊前面近クニ進出シ我方狀況ヲ搜索シツツアリ
李延年ハ依然該方面ヲ統一指揮シ第一軍及第三五師等ヲ以テ盤互

(正陽關東約三〇紆)及其ノ南方地區ヨリ潼關及其ノ南方地區ニ
亘リ又第四〇軍第一六軍ヲ以テ靈寶及其ノ南方地區ニ堅固ニ陣地
ヲ占領セント企圖シアリ

右ノ外陝東河防陣地増強ニモ鑑ミ敵ハ西安進攻ニ備ヘツツアリテ
差當リ積極的動向ナカルベキモ我方陣地占領掩護部隊ノ撤收ニ伴
ヒ逐次陝縣附近ニ反撃シ來ル公算少シトセズ

ニ第十三軍ハ警備態勢ノ確立ニ邁進スルト共ニ殘敵掃蕩ヲ續行中ニ
シテ二十三日ヲ以テ京漢線打通ニ伴ヒ直接警備態勢ヲ概ネ完了シ
第六十二師團ヲ以テ臨穎以北 獨立混成第七旅團ヲ以テ同以南地
區ノ警備ヲ擔任セシメアリ六月末日ニハ概ネ全般態勢ヲ整ヘ得ベ
ク築城ノ強化ハ七月以後トナル見込ナリ

又獨立混成第七旅團及騎兵第四旅團ハ一部ヲ以テ京漢線以東ノ殘
敵一周家口附近ニハ第一一師其ノ他約二〇〇〇、商水附近ニハ
騎兵第三師其ノ他約四〇〇〇、汝南附近ニハ騎兵第八師其ノ他六
七〇〇〇ヲ掃蕩シ十九日周家口ヲ占領セリ

軍事概観

0932

108

第一百十師團ハ洛寧高縣方面ノ殘敵掃蕩及警備強化ヲ圖リアリ

戰車第三師團ハ全力ヲ以テ整備中ナリ、當面ノ敵ハ戰意低調ニシ
テ京漢線兩側地區ノ第一第五戰區ニ遊撃部隊第五九軍ハ方城南北
地區ニ第三九軍ハ泌陽附近ニ第五一軍ハ確山西方地區ニアルモノ
ノ如シ

湯恩伯、蔣鼎文軍ハ依然整訓中ナルガ如シ

第六十四師團ハ二十二日甯陽ニ到着、第三十七師團ハ二十三日新
安店（明港北方約二〇軒）附近ニ岩本支隊ハ二十五日臨穎及其ノ
東方地區ニ到着シ引續キ南進中ナリ

（終）

(9) 友軍ノ損害

兵戦死二、(三語不明) 其ノ他隊人戦亡四、負傷三

二十五日ノ前學橋及早橋梁南岸附近懸空状況

(1) 三〇區管車大破二、小破二、裝甲信用車大破一、小破一

自動貨車大破一、九九式重機槍(下機槍)一、警備一、上機槍

二七、上機槍未搭甲(〇)大破及被服糧秣一部焼失

(2) 友軍損害

戦死三(高射砲隊)、重傷五(高射砲隊二、鐵道第六聯隊三)

輕傷一(三語不明)

(終)

軍主力ト策應シ之ヲ捕捉撃滅セントス、第一軍ト第十二軍トノ
 作戦地境ハ浴寧一新安ヲ連ヌル線トシ線上ハ第十二軍ニ屬ス
 天兵團ハ成ルベク速カニ半堂驛及頭鎮附近ヨリ前進ヲ起シ先
 ツ瀨池周邊地區ニ次テ新安附近ニ同ヒ突進シ所在ノ敵ヲ撃滅ス
 ベシ一部ハ西南方山地方面ヲ保持スベシ、又洋兵團ヲ以テ觀音
 堂方面ヨリ硤石附近ニ突進セシメ主力ノ作戦ヲ容易ナラシムベ
 シ、前記部隊ハ觀音堂附近進出後軍直轄タラシムベシ
 神部隊ハ王茅鎮一南村一坡頭鎮道ヲ速カニ先ツ瀨池方向ニ前進
 スベシ、同部隊ハ天兵團ニ配屬ヲ豫定ス
 兵戰團司令所ハ十四日夕ハ瀨池一附近ニ推進ヲ豫定ス 一終

0937

113

秘
親
展

門（三四一九七）道ヲ鐵門ニ向ヒ前進セシメ主力ハ十二時漚

池ヲ出發シ漚池―新安道ヲ新安ニ向ツテ突進シツツアリ

三 十日夕天兵團ハ半道溝南方ヨリ約一箇師ノ敵ノ反撃ヲ受ケタ
ルモ直チニ之ヲ擊退セリ

尙漚池附近ニ在リシ若干ノ敵ハ天兵團ノ進出ニ依リ南方ニ退
走セリ

四 漚池周邊ニハ大ナル敵ナキモノノ如シ

敵ハ西方ヨリノ増援部隊ヲ得テ硤石附近ニ於テ抵抗ヲ企圖シ

アルモノト判断ス

（終）

0939

115

印度方面

七ノ三

◎米軍ニ對スル逆貸與三、五〇〇萬弗

(榮港・五月八日〇時四五)

・印度方面ノ米軍ハ今年ニ入ツテカラ逆貸與トシテ印度ヨリ三

千五萬萬弗ニ上ル軍需資材ノ支給ヲ受ケタ

0100

0941

電報

昭和一九、五、一七
一六〇〇〇
一七〇〇〇
一七〇〇〇
一七〇〇〇
一七〇〇〇

乙部隊參謀長

通電先 次長、支隊、甲、禮、菊、第五師團

乙部隊情報第一三號

乙部隊ノ状況

一 天兵團（洋兵團）ヲ除キ新ニ杉兵團ヲ屬スルハ十五日夕新安周邊地
 區ニ集結中ニシテ二箇大隊ヲ追撃隊トシテ出發ヲ準備シ夫々道頭
 （三一―一九四）及聶滄嶺附近ニ追撃セシメ主力ハ成ルベク速カニ
 行動ヲ起シ杉兵團（三大隊）ヲ以テ藕池（三〇―一六四）道頭ノ線
 ニ地兵團（三大隊）ヲ以テ道頭東寧溝（三二―一九一）ノ線ニ進出
 ノ筈

ニ 洋兵團ハ新神 森本（有力ナル歩兵一聯隊）ヲ屬セラレ十五日朝
 碓石ヨリ目下陝縣方向ニ向ヒ前進中ナルモ細部ノ狀況明カナラズ
 三 新安附近ニ於テ天兵團ニ擊破セラレタル敵ハ第三八軍ノ二箇師及

第四七軍ニシテ主力ハ西南方ニ脱逸セルモ尙新安西南方附近ニハ

多數ノ敗殘兵殘存セルモノノ如シ

靈寶附近ニハ新ニ第八〇戰區ヨリ某軍（二箇師）到着セルモノノ如シ

四十三日夜以來降雨ノ爲自動車ノ運行杜絶シアリ

隴海線ハ碓山、新安、觀音堂（二四一―九七）間ニ於テ湘地西方四

軒ノ鐵橋破壊セラレアリ 復舊ノ日時目下不明

又給水塔ハ何レモ破壊セラレ使用シ得ルモノナシ

湘地附近ニハ機關車三（何レモ破壊セラレ目下修理中）貨車四〇ヲ

鹵獲シアリ

（終）

0943

118

事機秘親展

目誌用

乙集團ノ状況

乙集団甲種第一一七號(實証)一部未著再宿要求中)

次長宛

乙部隊參謀長

昭和一九、五、一八

八二〇〇〇〇
一三〇〇〇〇
一六〇〇〇〇
一八〇〇〇〇
提出

洋兵團ハ

十五日十三時ヨリ張茅鎮(二〇一九七)東方地區ヲ占領セル豫備

八師ノ第二三團ノ所屬部隊(追撃砲五ヲ有スル約二・〇〇〇)ヲ

攻撃シ引續キ附近ヲ掃蕩中ナリシモ十六日十四時陝縣方向ニ向ヒ

追撃ヲ開始ス

天兵團ハ

十五日夜藕池（三〇一九四）南側地區ニ向ヒ追撃セントセシ際方

箇軍ノ命ニ依リ目標ヲ變換シ綠城原ノ線ニ追撃スルニ決シ直チ

ニ追撃隊ヲ以テ水溝廟（三一一九〇）附近ニ攻ヲ急追セシムルト

共ニ杉兵團ヲ右第一線トシテ水溝廟附近ニ朝兵團ヲ左第一線ト

シテ魚泉（三四一九一）附近ニ向ヒ追撃セシム

尙一部ヲ以テ新安附近及新安一週地道ニ沿フ地區ヲ掃蕩中ナリ

三 神部隊本部及第二大隊ハ十五日十時

第三大隊ハ同日二十時瀧地ヲ出發洋兵團ニ追及

第一大隊ハ十六日午後以降藕池ニ進出シ敗敵捕捉ニ任ジツツアリ

四 第一戰區ヨリ靈賢方面ニ（電註、以下未著再電要求中）

（終）

0945

00 120

二天兵衛ハ洛寧北側ヲ總テ引續キ長次儀ニ同ヒ敵ヲ追撃ス

十八日夜戰鬪司令所ハ長水鎮ニ遷シタルモ細部ノ狀況明カナラズ

三車ハ爾後洋兵團ノ一部ヲ以テ陝縣附近ニ力ヲ以テ大營附近ヲ確

保セシメ天兵衛ヲ觀音堂（二四一七七）附近ニ轉進セシメ爾後

ノ作戦ヲ準備ス

（終）

0947

00 122

電

報

五、八

一四、三〇

五、八

二一、二〇

二五、二五

提

通電先次長支甲禮

乙部隊參謀長

冬考(黎明)成之留守第六十九師團留守

歐野司所之集參甲電第一番號

天兵團及敵第四集團軍、状況

一、天兵團ハ十七日八時三十分、藕池(三〇一、九四)魚泉

(一、一九一)線ニ進出シ引續キ西南方ニ追撃ス

其後ノ状況不明ナリ、ハ十七日十時頃ヨリ十六時頃

ニ亘リ藕池西南方ニ銃砲聲ヲ聞ク、韓城西北方ニ在

リシ敵、第四集團軍ヲ攻撃セシモノ、也

二、敵ノ第四集團軍ハ天兵團ノ進出ニ依リ、西北方ヘノ

退路ヲ遮断セテ、西方尖山(三二一、九一)北側方面ニ

車機救親展

退却セルモノ判断セラル
碓石(三一、九六)磁鐘(一八一、九八)附近三洋兵
圍一部ヲ以テ東南方ヲ監視スル如ク處置ス
(終)

0949

0 124

一、(ノ)三ノ九六ノ附近ヲ經テ城營(一三
 一八九六)ニ向ヒ突進セシメツツアリ
 二、天兵團ノ狀況ニ關シテハ別報ス
 三、第八戰區ヨリ靈寶ニ向ニ増援セシ敵
 ハ第一軍長ノ指揮スル第一師、第八師
 新編第二七師ナルモノ如シ
 尚胡宗南自ラ潼關以南ニ進出シアルモ
 ノノ如クヨ以テ軍ノ陝縣以西地區へ
 進出ニ伴ヒ更ニ兵力増加ヲ豫想セラル
 我が軍が潼關附近ニ進出セザル限リ積極
 的企圖ハナクモノト判断セラル
 (終)

報

五三、百三、
六三、六三

昭和一九、五、二二
五、二、一九、二、二
二、二、二、二、二、二
乙部隊參謀長

通電先次長支總禮、五航魚、乙留守、天留守

乙集參戰甲電第六六號

乙集參戰甲電第六六號

一、洋兵團(神部隊)屬スルヲ如故(八十八日夕)大營(三一、九六)

ヲ占領シ、九日同地附近ヲ掃蕩後左ノ態勢ニアリ

(一)大隊ヲ以テ會興鎮(一六、一八九)渡河點及陝縣附

近ヲ占領ス

(二)主力ヲ以テ大營東南高地及原店南側高地ヲ占領ス

(三)一大隊豫備隊シテ郭家店附近ニ控置尚二十日夜ヨリ

「子」兵團ヲ追擊シ、兼應シ一部ヲ以テ陝縣南方水流

線ニ遮断線ヲ構成スル豫定

0952

127

二天兵團（杉兵團）配屬如故ハ子兵團（三大隊）

ヲ以テ余庄（三〇一八八）頭峪（三四一九三）宮前村（三

一九四）菜園（二八一九三）十八王村（二四一九七）道 洛寧

一前河（三一九三）一環村鎮（一七一九四）道馬店（

二三一八七）一但シ柳樹（一七一九三）一裕口（一六一

九四）道ヲ陝縣南側水流ノ線ニ向テ追撃セシメ（三

一）朝陝縣南側ヲ進出豫定ハ主力ハ洛寧一茶房

山嶺（三八一九三）一觀音堂一陝縣道ヲ陝縣東側

地區ニ轉進中ニシテ二十日夕觀音堂ニ達ス

三洋兵團が陝縣附近ニ於テ擊破セシ敵第一〇六師

第三一七團（第一〇六師主力ハ洛河河谷方面ニ轉用

シ及第八師、第二三團ニシテ鹽池縣北進ヲ

附近六第三九師及第一〇三師ノ増援ヲ受ル

師第八師第一六七師ノアルコト略々確證見シテ尚第
八戦區方面ヨリ一部増加ヲ企圖シアルモノ如シ
第四集團軍第三六集團軍ノ殘敵ハ洛寧ノ西北
山地ニ遁入シ第三六集團軍部第九六軍部等
モ警伏シアルモノ如シ

〇
〇

「スラバヤ」港船舶油田（「ウオノコロモ」）

工場地帯

六本空襲後艦隊中ノ米艦隊ハ濠洲

「フリーマントル」ハ「バス」南ニ英艦隊ハ「フリー

マントル」ヲ經テ「コロンボ」ニ歸還スト陳

述シアリ

七本搭乗員ハ十七日朝來襲ノ「グラマン」機

ノ搭乗員ホルト判明シ速カニ軍ニ押送

セシメ細部調査豫定

（終）

0954

